

ノーク研究所のSMB短観

09年秋冬版

Vol.009

調査設計/分析/執筆: 岩上由高

09年秋冬のSMBのIT指標

株式会社ノークリサーチ(本社〒120-0034 東京都足立区千住1-4-1 東京芸術センター1705:代表伊嶋謙二03-5244-6691 URL: http://www.norkresearch.co.jp)では、第9回目のSMB市場に対する市場展望を行った。

今回の「SMB短観」は、09年秋冬の「業種別および年商別のIT投資意欲」などについてアンケート調査を実施し、1000社の回答結果の速報をまとめたものである(09年11月実施)。今後も、SMB市場に関する様々な定点観測や専門的な分析を継続的に行い、四半期毎に発表する(毎年2月、5月、8月、11月に発行予定)。

経済環境や税制改正の影響で中堅・中小のIT投資は再び厳しい状況へ

- ▼2009年5月から続いた回復基調は2009年11月には一転して再び下降
- ▼全ての業種と年商帯において、今後のIT投資意欲は概ね抑制の傾向
- ▼IT導入を支援する優遇税制の期限切れなどの影響は懸念材料の一つ
- ▼大企業におけるIT投資回復が中堅・中小に伝播するのは来年5月以降
- ▼より少ないコストと短い期間で業績改善に直結する提案が求められる

SMBのIT投資天気予報

2009年5月から続いた回復基調から再び下降へ

以下は2009年12月以降のIT投資予算額が2009年8月～2009年11月と比べてどれだけ増減するかを尋ね、その結果を天気図として表したものである。「増える」「同程度」「減る」の三段階の設問とし、「増える」と「減る」の差で「IT投資意欲指数(IT投資DI)」を算出し、五段階のIT天気予報として指標化している。各欄に記載された数値のうち、矢印左側は前回調査(2009年8月)、矢印右側は今回調査(2009年11月)におけるIT投資DIを表している。

2009年5月、2009年8月の過去二回の調査ではIT投資DIの値そのものは依然マイナスであるものの、前回調査時点からの回復が進む傾向が続いていた。しかし、今回の2009年12月時点では再び下降へと転じる厳しい状況となった。以降のページでは年商別/業種別にIT投資DIと合わせて経常利益DI(前回調査時点と比較した場合の経常利益の変化を「増える」「同程度」「減る」の三段階の設問とし、「増える」と「減る」の差で指標化したもの)の時系列変化を分析している。

IT天気予報 (SMB全体)	年商別のIT天気予報		業種別のIT天気予報			
 -24.1→-33.9	中堅Hクラス (年商300億～500億円)	 -23.0→-27.0	組立製造業 (電機/機械等)	 -36.4→-44.9	小売業	 -29.2→-27.4
【天気予報の目安】 快晴:25以上	中堅Mクラス (年商100億～300億円)	 -25.5→32.0	加工製造業 (食品/薬品/飲料/衣料等)	 -22.8→-29.3	IT関連サービス業	 -19.9→-42.0
晴れ:15～25未満	中堅Lクラス (年商50億～100億円)	 -24.5→-39.5	流通業	 -22.2→-39.5	サービス業 (IT関連以外)	 -21.2→-25.6
時々晴れ:5～15未満	中小企業クラス (年商5億～50億円)	 -19.0→-34.0	建設業	 -17.0→-35.2	その他業種	 -39.2→-31.3
曇り:±5.0未満	小規模企業クラス (年商5億円未満)	 -28.5→-37.5	卸売業	 -22.0→-32.9		
雨:-5以下						

業種別の業績&IT投資傾向

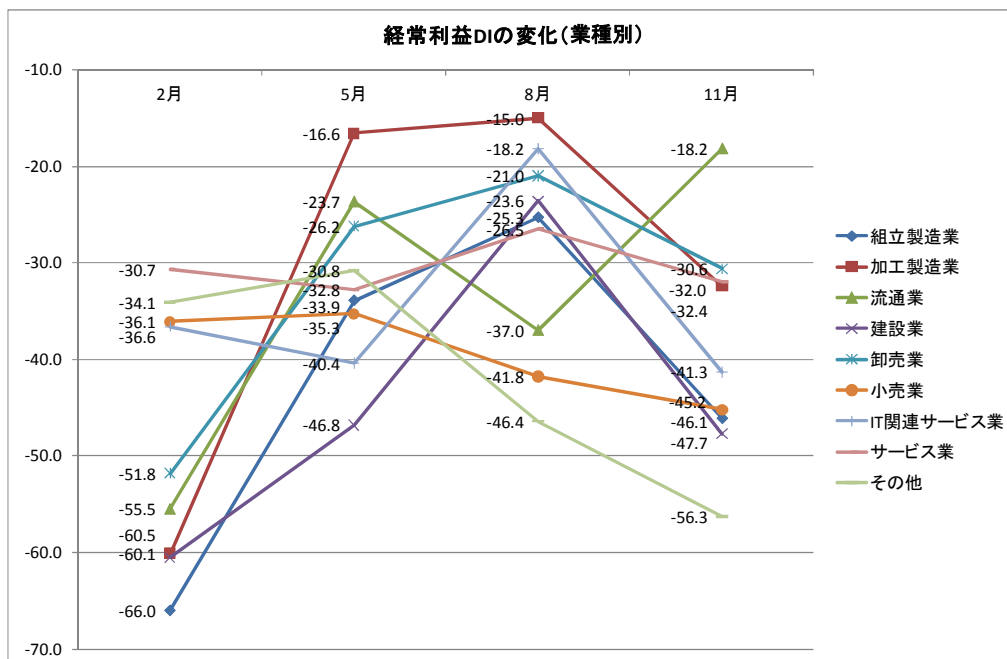
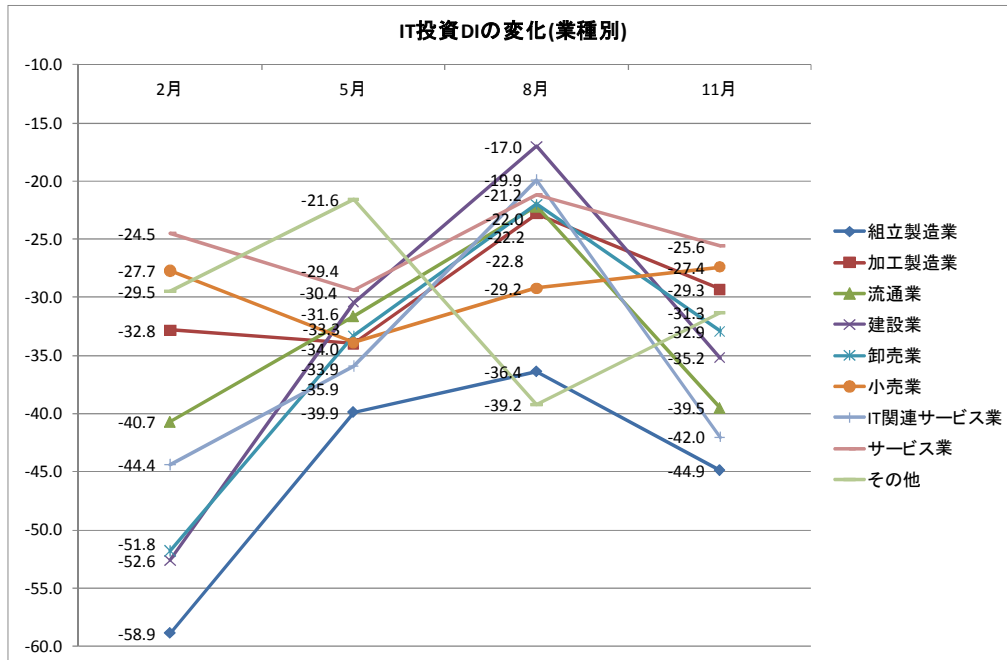
経済環境変化の影響で一般的にIT投資は再び抑制へ

以下のグラフは2009年2月から2009年11月までのIT投資DIと経常利益DIの変化を業種別に示したものである。IT投資DI、経常利益DIいずれも2009年8月まではプラスの値に向かって回復が進んでいたが、2009年11月時点では再び下降へと転じている。大企業では製造業を中心に回復の兆しが見られるものの、急激な円高やデフレといったマイナス要因も作用し、経済環境変化の影響を受けやすい中堅・中小企業の業績が煽りを受けた状況といえる。

流通業は他業種と異なり経常利益DIが2009年8月時点では下降し、2009年11月には上昇に転じている。この主な要因は原油高騰が落ち着いたことなどによって運輸業が若干持ち直した点が作用している。同業種においてIT投資DIが下降していることからわかるように今後のIT投資に結び付く動きとは言い難い。

また小売業はエコポイントや地上デジタルテレビへの移行などといった消費刺激策が下支えし、2008年8月までの経常利益DIの回復基調がやや弱かったものの、下半期全体を通じた下落も小幅に留まっている。ポイントサービスの拡充などによる差別化などで消費者の獲得競争が今後激化することもあり、2008年8月時点と2009年12月時点と比較した時のIT投資DIは主要な業種の中で若干ではあるが唯一上昇している。

今後、どの業種のIT投資がいち早く回復するか？については為替や物価といった経済全体の行方が大きく左右する。ただし、円高やデフレに歯止めがかかり、大企業では兆しが見え始めている回復が中堅・中小企業にまで伝播するには時間がかかる。2009年8月時点で予想された2010年2月(次回調査)時点でのIT投資DIプラス転向は次々回の2010年5月以降まで遅れる可能性が高まってきた。



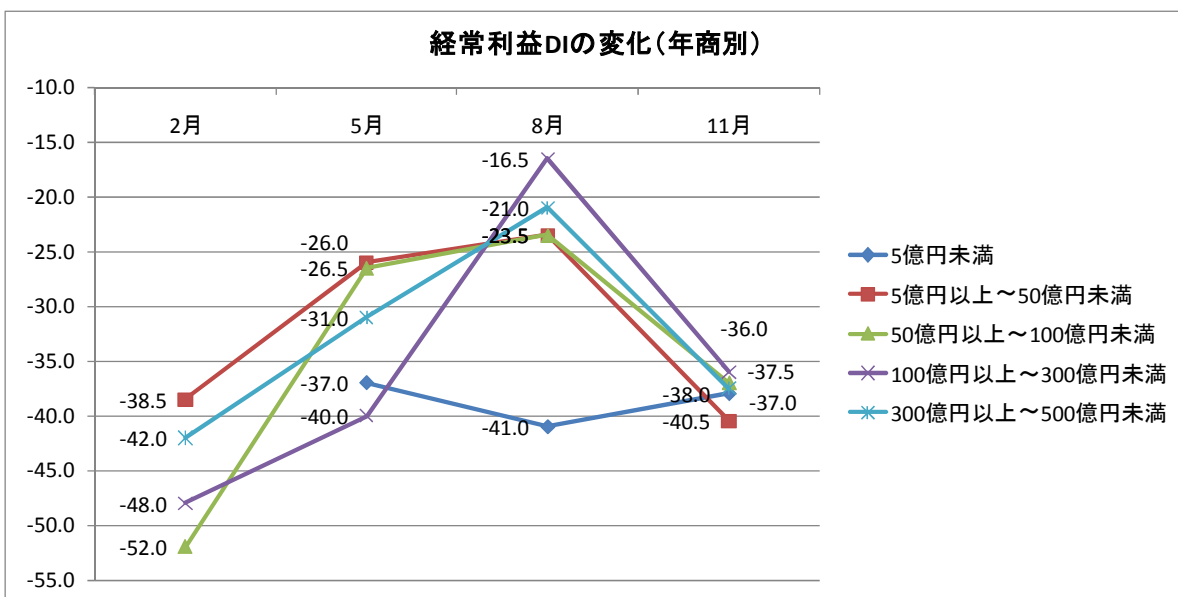
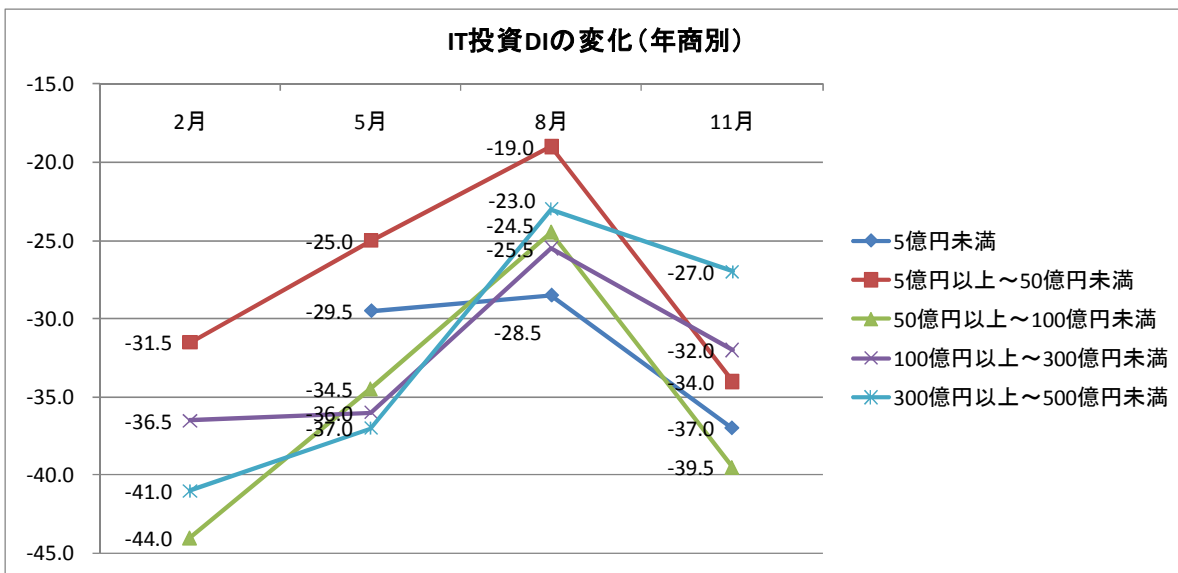
年商別の業績&IT投資傾向

年商帯によって異なるニーズに応じた支援が必要

以下のグラフは2009年2月から2009年11月までのIT投資DIと経常利益DIの変化を年商別に表したものである。(年商5億円未満については2009年5月以降より調査対象に追加)業種別の傾向と同様に、いずれの年商帯においてもIT投資DIと経常利益DIが2009年11月時点で下降に転じている。経常利益DIに関しては全年商帯において同じ値へと収束しており、企業規模によらない経済環境全体の影響が強いことを示唆している。

年商5億円未満の経常利益DIについては2009年12月時点で若干の上昇が見られるが、経常利益DI値そのものが低い値で推移しており、むしろ厳しい状況には何ら変化がないと見るべきである。年商50億円～100億円のユーザ企業は経済環境変化に特に敏感に反応しやすい。そのため、2009年8月までのIT投資動向で強い回復基調を示した半面、2009年11月時点の下落幅も他の年商帯と比べて大きくなっている。それと比較すると、年商100億円～500億円のユーザ企業では2009年11月時点のIT投資DIの下落幅がやや小さい。中堅・中小の上位年商帯においては、大企業でのIT投資回復の兆しが徐々に伝播しつつある状況と推測される。

今回の結果は政権交代後、経済面での明確な成長戦略が描き出されていないことも大きく影響していると考えられる。また、2010年3月に期限を迎える「中小企業投資促進税制」や「情報基盤強化税制」の延長が認められない可能性が高いことや、中小企業法人税の減税見送りといった中小企業に対する税制面での優遇策がなくなることから、ユーザ企業のIT投資へのマインドがさらに冷え込む恐れもある。しかしながら、こうした厳しい局面においてIT活用による打開策を求める潜在ニーズは依然として存在する。ユーザ企業の業務改善に直結し、低いコストと短い期間で目に見える結果が出せるソリューション提供の更なる工夫が求められる局面であるといえる。



【SMBアンケート調査概要】

▼調査対象;年商500億円未満の国内民間企業 ▼調査方法;Webアンケート ▼有効回答数;1000社 ▼調査実施時期;2009年11月下旬
 ノークリサーチでは中堅・中小企業向け市場(SMB=Small & Medium Business)を『年商5億円以上500億円未満の民間企業』と定義している。
 さらに年商によってセグメント分けを行い「中堅Hクラス(年商300億円以上～500億円未満)」、「中堅Mクラス(年商100億円以上～300億円未満)」、
 「中堅Lクラス(年商50億円以上～100億円未満)」、「中小企業クラス(年商5億円以上～50億円未満)」の4つのカテゴリに分類している。
 今回の調査では、さらに年商5億円未満の「小規模企業クラス」も対象に加えている。

ノークリサーチご紹介

中堅・中小企業におけるIT市場調査では10年の実績

年商5億円以上～500億円未満の中堅・中小企業は国内に約20万社あるといわれています。

しかし、この中堅・中小企業市場に自社の製品やサービスを効果的に展開することは容易ではありません。単に大企業向けの商材を簡易化して提供するだけでは成功しないのが実情です。なぜなら、中堅・中小企業といってもその幅は非常に広く、年商や業種など様々な属性に応じ、実に多彩なニーズや課題をもっているからです。

ノークリサーチは10年以上に渡って、中堅・中小企業におけるIT市場調査の実績を積み、同市場における調査とコンサルティングの豊富なノウハウを蓄積しています。ノークリサーチでは中堅・中小企業におけるIT活用の促進をお手伝いする様々なサービスをご用意しています。

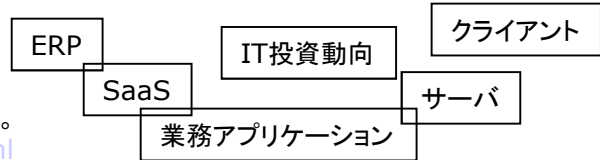
inform@norkresearch.co.jpまでお気軽にお問い合わせください。

年刊調査レポートの活用

ハードウェア、ソフトウェア、サービスなど様々なカテゴリを網羅した多数の年間調査レポートを発刊しています。多くのIT企業様が中堅・中小企業市場をウォッチする有効なツールとして購読されています。

豊富な年間調査レポートを提供

年間調査レポートの一覧についてはこちらをご参照ください。
<http://www.norkresearch.co.jp/result/report.html>

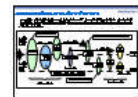


各種カスタムリサーチの実施

「カスタムリサーチ」はクライアント企業様個別に設計・実施される調査とコンサルティングです。

- 1. 調査企画提案書の提示:**
初回ヒアリングに基づき、調査実施要綱(調査対象とスケジュール、費用など)をご提案させていただきます
- 2. 調査設計:**
調査企画提案に基づき、具体的な調査方法の選定、調査票の設計/作成やインタビュー取材計画立案を行う
- 3. 実施と集計:**
設計された調査を実施し、その結果を集計する
- 4. 分析:**
集計結果を分析し、分析レポートを作成する
- 5. 提言:**
分析結果を基にした提言事項を作成し、報告する

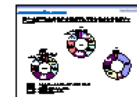
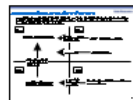
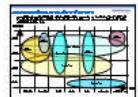
多彩な調査方法が活用できます。



定量調査(アンケート調査)
ユーザ企業の実態とニーズを数値的に把握したい
販社やSIerが望む製品やサービスの動向を知りたい

定性調査(インタビュー調査)
ユーザ企業が抱える課題を個別に詳しく訊きたい
販社やSIerがベンダに何を期待しているかを訊きたい

デスクトップリサーチ
競合他社の動向などを一通り調べたい



本データの無断引用・転載を禁じます。引用・転載をご希望の場合は下記をご参照の上、担当窓口にお問い合わせください。
引用・転載のポリシー: <http://www.norkresearch.co.jp/policy/index.html>



株式会社 ノークリサーチ

監修: 伊嶋謙二 (イシマ ケンジ)
調査設計、分析、執筆: 岩上由高 (イワカミ ユタカ)
東京都足立区千住1-4-1 東京芸術センター1705
TEL 03-5244-6691 FAX 03-5244-6692
inform@norkresearch.co.jp
<http://www.norkresearch.co.jp/>